

2004年度「ジェンダー論」@成蹊大学／「社会学b」@清泉女子大学／「ジェンダー論ⅠⅠ」
@流通経済大学

担当教員：皆川満寿美（非常勤講師）
<http://homepage3.nifty.com/mmasumi/>

講義で用いた、あるいは参考にした、さらには先に進むために読むべき、文献リスト
(その5)

トピック6 / セックス / ジェンダー / セクシュアリティ

(使用文献 使わないものもありましたがそのまま掲載します)

- エレノア・E・マッコピィ(1979)『性差 その起源と役割』家政教育社
M・ミード『男性と女性』東京創元社
J・マナー&P・タッカー(1975/1979)『性の署名』人文書院
R・ストラー(1968/1973)『性と性別 男らしさ女らしさ』岩崎学術出版社
E・バダンテール(1980/1991)『母性という神話』筑摩書房
伏見憲明(1996)『クィア・パラダイス』翔泳社
Oakley, Ann(1972) Sex, Gender and Society. Gower/Maurice Temple Smith.
アンソニー・ギデンズ(1997/1998)『社会学(第3版)』而立書房
Rubin, Gayle(1975) "The Traffic in Women" (邦訳/2000)「女たちによる交通 性の『政治経済学』についてのノート」、
『現代思想 [特集]ジェンダー』vol.28(2)(2000年2月号)、pp.118-159
Scott, Joan W.(1988) Gender and the Politics of History. Columbia Univ. Press. (邦訳/1992)『ジェンダーと歴史学』平凡社
リンダ・ニコルソン(1994/1995)「ジェンダーを解読する」『思想』853号
Butler, Judith(1990) Gender Trouble: feminism and the subversion of identity. Routledge. (邦訳/1999)『ジェンダー・
トラブル フェミニズムとアイデンティティの攪乱』青土社
トマス・ラカー(1990/1998)『セックスの発明 性差の観念史と解剖学のアポリア』工作舎
小倉東/マーガレット(1996)「ドレスの裾を引きずって」『ユリイカ 増頁特集 クィア・リーディング』1996年11月号、
青土社、pp.130-132
D・ハルプリン(1995)『同性愛の百年間』法政大学出版局
皆川満寿美(1997)「障害としての文化」『武蔵大学人文学会雑誌』vol.29-1,2、pp.裏43-69
小田亮(1996)『一語の辞典 性』三省堂
ミシェル・フーコー(1986)『性の歴史 知への意志』新潮社
ハヴロック・エリス(1927)「性的倒錯論」、土屋恵一郎編/富山太佳夫監訳(1994)『ホモセクシュアリティ』(弘文堂)
所収
村瀬幸浩編(2004)『最新版 セクソロジー・ノート』十月舎
佐伯順子(1998)『「色」と「愛」の比較文化史』岩波書店
アドリエヌ・リッチ(1986/1989)「強制的異性愛とレズビアン存在」『血、パン、詩』晶文社
古川誠(1995)「同性『愛』考」、『imago 特集 ゲイ・リベレーション』vol.6-12、青土社、pp.201-207
ジョン・デミリオ「資本主義とゲイ・アイデンティティ」、『現代思想 総特集=レズビアン/ゲイ・スタディーズ』青土社、
1997-5(vol.25-6)
キース・ヴィンセント×小谷真理(1996)「クィア・セオリーはどこまで開けるか」、『ユリイカ 増頁特集 クィア・リー
ディング』1996年11月号、青土社、pp.78-98

(参考文献 もう、いろいろ出てきて追いつかん! 再掲しているものもあります)

井上輝子(1995)「日本の女性学と『性役割』」、『日本のフェミニズム 3 性役割』岩波書店

- ハロルド・ガーフィンケル(1967/1987)『アグネス、彼女はいかにして女になり続けたか ある両性的人間の女性としての通過作業とその社会的地位の操作的達成』、『エスノメソドロジー 社会学的思考の解体』せりか書房
- 虎井まさ衛(1996)『女から男になったワタシ』青弓社
- 虎井まさ衛(2000)『トランスジェンダーの時代 性同一性障害の現在』十月社
- 橋本秀雄(2000)『性のグラデーション 半陰陽児を語る』青弓社
- 松尾寿子(1997)『トランスジェンダリズム』世織書房
- 山内俊雄(1999)『性転換手術は許されるのか 性同一性障害と性のあり方』明石書店
- 山内俊雄(2000)『性の境界 からだの性とこころの性』岩波書店
- ジョン・コラピント(2000=2000)『ブレンダと呼ばれた少年 ジョン・ホプキンス病院で何が起きたのか』(村井智之訳) 無名舎
- ヨコタ村上孝之(1997)『性のプロトコル』新曜社
- 沢部ひとみ(1996)『百合子、ダスヴィダーニヤ 湯浅芳子の青春』学陽書房(女性文庫)
- 井田真木子(1994/1997)『もうひとつの青春 同性愛者たち』文春文庫
- 砂川秀樹監修・編集(2001)『パレード 東京レズビアン&ゲイパレード2000の記録』ポット出版
- 掛札悠子(1992)『「レズビアン」である、ということ』河出書房新社
- 掛札悠子(1997)『抹消(抹殺)されること』、河合隼雄・大庭みな子編『現代日本文化論2 家族と性』岩波書店
- 池田久美子(1999)『先生のレズビアン宣言 つながるためのカムアウト』かもがわ出版
- 伏見憲明(1991)『プライベート・ゲイ・ライフ』学陽書房(女性文庫で再刊、1998)
- 広野広朗(1994)『アンチ・ヘテロセクシズム』パンドラ
- L・フェダマン(1996)『レスビアンの歴史』筑摩書房
- 岩波講座現代社会学10『セクシュアリティの社会学』岩波書店
- S・ヒース(1988)『セクシュアリティ 性のテロリズム』勁草書房
- J・ウィークス(1996)『セクシュアリティ』河出書房新社
- 川村邦光(1996)『セクシュアリティの近代』講談社
- 赤川学(1999)『セクシュアリティの歴史社会学』勁草書房
- ジェニファー・ロバートソン(1998=2000)『踊る帝国主義 宝塚をめぐるセクシュアル・ポリティクスと大衆文化』現代書館
- イヴ・セジウィック(1990/1999)『クローゼットの認識論』青土社
- イヴ・セジウィック(1985/2001)『男同士の絆』名古屋大学出版会
- 多木浩二(1995)『スポーツを考える 身体・資本・ナショナリズム』ちくま新書
- アン・ホール(1996/2001)『フェミニズム・スポーツ・身体』世界思想社
- 加賀谷淳子編(1998)『女性とスポーツ 動く体の科学』朝倉書店
- ドリーン・キムラ(1999/2001)『女の能力、男の能力 性差について科学者が答える』新曜社
- A・F＝スターリング(1990)『ジェンダーの神話』工作舎
- エヴリン・フォックス・ケラー(1985/1993)『ジェンダーと科学 プラトン、ベーコンからマクリントックへ』工作舎
- 同(1992/1996)『生命とフェミニズム 言語・ジェンダー・科学』勁草書房
- ダナ・ハラウェイ(1991/2000)『猿と女とサイボーグ 自然の再発明』青土社
- ロンダ・シーピング(1999/2002)『ジェンダーは科学を変える!? 医学・霊長類学から物理学・数学まで』工作舎
- 小川真理子(2001)『フェミニズムと科学/技術』岩波書店
- レオノア・ティーファー(1984/1998)『セックスは自然な行為か?』新水社
- ルドミラ・ジョーダノヴァ(1989/2001)『セクシュアル・ヴィジョン 近代医科学におけるジェンダー図像学』白水社
- 荻野美穂(2002)『ジェンダー化される身体』勁草書房
- 田間泰子(2001)『母性愛という制度 子殺しと中絶のポリティクス』勁草書房
- 小倉千加子(2001)『セクシュアリティの心理学』有斐閣
- ジャコーバス/ケラー/シャトルワース編(1990/2003)『ボディー・ポリティクス 女と科学言説』世界思想社